

難題と柔軟に向き合い まずはその日を待とう。 危機管理・安全対策

海外邦人安全協会理事
ロングステイ財団政策審議委員 福永 佳津子



収束する日は必ずやってくる

待ち遠しいコロナによる国境の封鎖解除だが、専門家は、「歴史上でも克服できなかった疫病はなかったように、コロナは確実に収束する」と言う。ここ2年の間、ロングステイへのジリジリする思いを次なるロングステイのステージで確かな形にする日もそう遠くないはずだ。まずはその日を待つことだ。

実際に渡航が解禁されたとしても、気持ちを急かして走り出したら、転んでけがをする。コロナの前と後では、価値観も生活様式も社会構造もかつて知るものと違ってきているはずで、それを心して旅支度をしてほしい。自分自身だって、人生観や物の見方が変化してきているのだから。

さらに、専門家はこうも言う。「疫病よりも怖いのは、人。無知不安・怖れが、もう一つの恐怖という感染症を引き起こし、デマを広め、分断を生んだ」。中国に端を発したとされる今回のコロナ感染で、アジア系の人たちに見境なく悪態をついたり、暴力事件が散発したこと、報道で知る通りだ。行き慣れていたはずの滞在地であっても、アジア人への偏見や差別が人の心の中に滞留しているかも知れない。心配事は他にもある。コロナで

失業した人、閉鎖的環境下にあつて心身のバランスを崩した人、人生に悲観的になっていく人など、犯罪に結びつく不安要素を抱える人は当然増えている。貧困に窮して、攻撃的になっている人もいる。不幸にも家族を失って失意のどん底にいる人さえ少なからずいる。そうした人たちが以前より格段に増えていることを心して、彼らにとって目立つ存在、気に障る存在にならない自身の工夫が必要だ。

世界中の同士と共に

最近、世界にいる仲間たちと、コロナを語るZoom情報交換会を開いた。「ワクチン接種は駅のウォークインでやったよ」「卒業証書はドライブスルーで渡されたわ」「催しものの参加費は、ワクチン接種者は非ワクチン接種者の半額よ」などなど。みんながやむなき我慢を耐えようとする時、お国柄や文化背景がはつきり見えて、むしろ彼らの知恵や発想に助けられることを知った。考えてみれば、私たちが地球暮らしを諦めきれないのは、自分たちのカルチャーではおよそ思いつかない人生の向き合い方を知ってみなかったからだ。

それぞれの国の日常的なコロナ対策に共鳴し、納得し、またその徹底ぶりに驚いたり感心したり。屈

託ない情報交換会が終わってみれば、同じ厳しい体験をした者同士。むしろ人に対する思いを深め、心優しく寛容な気持ちがさらに醸成されて、地球がぐんと近づいた気がした。もちろん、前述の警戒心を一応は留意しつつ、だからこそ人間的な接触が以前より手応えのあるものになりそうだと思う。

平和と安全が永遠に担保されないことが、今回のコロナでわかったはずだ。私たちはいつなんどき、どんなことが起きて、たじろがず、できる最善の策と知恵を絞り出して、冷静に対応し、かつその難題と柔軟に向き合う覚悟が求められるということだ。そこそが、人生でもロングステイでも、そして海外での危機管理でも必要な姿勢と言えよう。

改めて、滞在国の医療事情に敏感になることは必須だ。医療体制が脆弱な国へのロングステイには、それなりの覚悟がある。コロナに限らず、疫病への警戒を怠らず、情報不足や侮った構え、不用意な行動を慎むことが肝要だ。外務省の「海外安全ホームページ」を身近な手引き本として、ステイ先の治安情報、医療情報を丹念にチェックし、新しい迎え方をしてくれるステイ先で、新たな魅力を探し出してほしい。

思いを溜めて、その日を待とう。